

「わかりやすいパターン認識 第2版」正誤表（第2刷）

| 頁 | 箇所 | 修正前 | 修正後 |
|-----|--------|---|---|
| iii | 下から7行目 | 2015年に | 2014年に |
| iv | 脚注1 | <p>*1 オーム社書籍検索ページ (https://www.ohmsha.co.jp/book/) で、本書のタイトルを検索していただきたい。</p> | <p>*1 https://www.ohmsha.co.jp/book/9784274224508/</p> |
| 65 | 上から7行目 | などが使われる。 | などが使われる。誤差逆伝播法の処理過程をアニメーション風にまとめ、オーム社のウェブページ（ivページの脚注参照）に掲げたので参照されたい。 |
| 232 | 脚注1 | <p>*1 もし、\hat{w} のノルムが小さいと、図 A.2 に示すように、繰り返しの度に重みが \hat{w} から遠ざかることになる。重みの解として \hat{w} ではなく $\alpha \hat{w}$ を用いるのは、そのような現象を回避するためであり、α はそのための補正項である。</p> | <p>*1 もし \hat{w} のノルムが小さく、\hat{w} が初期値 w^1 に対して原点寄りに位置すると、図 A.2 に示すように、繰り返しの度に重みが \hat{w} から遠ざかる。解領域内の任意の \hat{w} に対し、ある α が存在し、$\alpha \hat{w}$ には必ず収束する。そのような α の値を示したのが式 (A.1.17) である。</p> |
| 233 | 図 A.2 | | <p style="color: red;">(w^1 を追記)</p> |

・赤字は補足説明。